

職場は地球

一般国道28号 排水溝改修

鳴門市大津町



車も通行人も隣り合わせ 狭小な現場で安全を維持する

「歩道の排水溝のコンクリートが割れとって危ないんだよ」。地域住民の声を受け、昨年4月より国道28号の松茂町宮の前から鳴門市撫養町大桑島までの区間で行われているのは、歩道の排水溝水路を改修するための工事だ。40年以上前、国道28号が施工されたときに一緒に作られたこの水路は、老朽化によってコンクリートが割れたり、水漏れが起こるなどして、通行人の妨げになっていた。



こちらの延長は40メートル。現在、工事全体の3割ほどまで進んでいる。

の皆さんが工事を担当している。現場の延長は75メートル。排水溝の維持工事というところと蓋の取り換えのみであったり、延長数メートル程度の小規模工事のことが多く、75メートルという長い距離は稀だそう。延長が長いのでまず40メートル、次に35メートルと2段階に分けて工事を進める。現場のすぐ真横では車が走り、通行人が往來し、反対側は盛り土となっている非常に狭い現場。機械が入る作業では通行人の安全に細心の注意を払う必要がある。現場監督を務めるのは亀井組の逢坂恭浩さん（46歳）。祖父が土木系の職に就いていた影響もあり、池



近隣で事故が起きたときにすぐ対応できるよう、逢坂さんの車には事故処理道具が積まれている。

田高校卒業後は福岡の西日本工業大学に進み土木工学を学んだ。亀井組に入社して24年目。逢坂さんの仕事は日中の工事現場の監督に限らず、担当道路で交通事故が起これば現場の対応に駆けつけたり冬場路面凍結の知らせがあれば業者さんを手配するなど、昼夜問わず安全に関わる業務全般をこなす。休日や出先で他社の工事現場に遭遇すると、無意識にガードマンの誘導の仕方やバリケードの張り方などをチェックしてしまうとか。「ここが良い、丁寧、もう少し」と自分の仕事への参考にするのだ。「今回の工事もある業務でも、いつも一番大切にしていることは利用者の安全ですね」と日々24時間体制で挑む。



冬場の除雪巡回、路面の凍結防止散布材も維持工事の一つ。

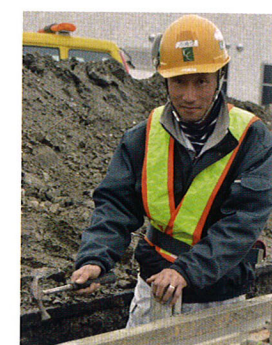


一般国道28号 排水溝改修

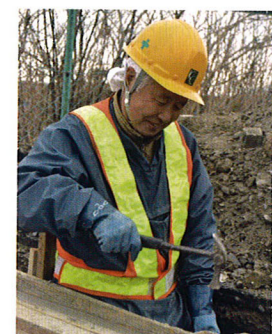
工事名……平成23年度 11・28・55号維持工事
施工箇所……鳴門市撫養町大桑島～松茂町宮の前
施工……亀井組、金岡組
施工延長……75m(全8.3km)
工期……平成23年4月1日～平成24年3月31日
現場人数……約5人



逢坂恭浩さん(亀井組土木部課長・46歳)。



「車両通行量が増え、学生さんも多く通る朝と夕方はとくに安全に気を配ります」と金岡組・梅津勤さん(41歳)。



前職はサラリーマンだったため内容の違う仕事が「おもしろい」と13年目の金岡組・石川雄二さん(74歳)。



「安全に、きれいに仕上げたい」と5年目の金岡組・川原祐二さん(38歳)。



国道28号工事を担当する現場の皆さん。